

3月

カトリック麹町教会

# MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう



▲ヨセフ年(2021年)にヨセフホールに設置された「聖ヨセフ木像」の写真とともに

## 3月は聖ヨセフの月・ 3月19日は聖ヨセフの祝日

援助修道会 シスター 品川ヨシ子

ここに取り上げる聖ヨセフは、イエスの養父です。彼は一言も語りません。彼について知ることが出来るのは、主に「マタイ福音書」1章と2章です。マタイによると、ヨセフはダビデの系図に連なる人で、マリアと婚約して

エジプトで何年間か難民生活を送り、再びイスラエルに戻ってナザレに住み、大工の仕事で家族のために黙々と働き家族を養いました。

### 神の計画の実現にむけてマリアを引き受ける

ましたが、一緒になる前に聖霊によって彼女が身ごもっていることが分かったのです。眠れないほど苦しんだヨセフはその後、夢を見て生涯神さまの指示に従い続けます。身重のマリアを引き受け、彼女と共にベトレヘムに旅し、幼子イエスの誕生に立ち会い、エルサレムの神殿に幼子を奉獻し、エジプトに避難し、

イエスが12歳の時にはヨセフは生存していたようですが、その後の聖書に彼の姿は現れません。ユダヤ人の男子は13歳でバル・ミツバと呼ばれる元服式があるので、イエスが成人となったからでしょう。ヨセフは、イエスがユダヤ人社会で父親を必要とする期間は家族を守り、マリアの傍で大きな役割を果た

にマリアを引き受けなかったら、今私たちの知っている聖家族はきっと存在しなかったでしょう。マリアが路頭に迷うことを神は望まれないでしょうが、マリアが「お言葉のとおり」と言われ、ヨセフがマリアを受け入れたから、神の計画は実現に向かったのです。

### 神が望まれるままに動き、ひっそりと役割を果たす

沈黙の人ヨセフは、ただひたすら神への絶大な信頼を持ち、神が望まれるままに動きました。彼は自分の考えでいた将来への夢をすべて神に捧げたのです。ヨセフは、マリアの陰でひっそりとその役割を果たしました。きつと、自分が果たした幾多の苦しみの跡を見て、「感謝」されたことでしょう。マリアもヨセフに感謝をされたことと思います。私たち教会は、ダビデの子孫として、マリアの夫として選ばれたヨセフに、もっと尊敬と感謝の念をもつと良いと思います。彼の人生には誰にも分からない苦しみと涙がたくさんあったらうと思えます。

人とともに涙を流せること、それが聖である

(教皇フランシスコ)

「使徒的勧告 喜びに真へ切ページ」  
ロヨラの聖イグナチオと同時代の偉大な聖人で、聖ヨセフに対して絶大な信頼と深い信心を持ったアピラの聖テレジアは、「聖ヨセフにお願いして聞き入れられなかったことはありません」と言っています。私も、時々、聖ヨセフに取次ぎを願います。

このような信心は今日の教会には、はやらないかもしれませんが、永遠へとつながる諸聖人の交わりを実感していくことになると思っています。「聖ヨセフの月」に大切な願いを祈りましょう。

### 教会報 MAGIS 3月号

- † 新年祝賀会・4年ぶり対面開催 P2
- † 【ミッション2030】  
今年度の取り組みのご報告 P3
- † 教会行事 P4
- † 教会活動グループ便り ⑩ P5
- † 〈現聖堂25周年記念連載〉  
聖イグナチオ教会と私 ② P6
- † Family of St. Ignatius  
～インドネシア共同体から～ P7
- † ご帰天 口バート・ディーターズ神父 P7

【3月の共同祈願】

† 3月2日(土)18:00 ~  
3月24日(日)18:00

新年度を前に、若者たちが希望を持って次のステージに進む準備ができますように。また、戦争や災害で苦しんでいる方々に思いをはせて、私たちができることを探していけますように。

† 聖木曜日(3月28日)

「私は仕えられるためではなく、仕えるために来た。」とイエスさまはおっしゃいます。私たちも人々に仕える姿で神さまの愛を示すことができますように。

† ご復活の主日(3月31日)

この喜びの日に洗礼を受けられる方々が、神さまからの新しい命に輝けますように。また、このミサに与れない方々にも神さまからの恵みがありますように。

新年祝賀会

4年ぶりの対面 新年祝賀会2024

1月7日(日) 11時より、新年祝賀会がヨセフホールにて行われました。高祖敏明主任司祭の挨拶から始まり、鏡開きが復活、ハビエル・ガラルダ神父のイエズス会入会75周年もお祝いしました。各共同体がダンスなど披露、外国語圏の方も大勢参加し、テレジアホールではメリエングラグループよりお汁粉とコーヒーマカマカマがふるまわれました。

高祖敏明神父の挨拶

最初に現聖堂25周年について、話をされました。「旧聖堂から数えると75周年、戦争で全焼した前身の聖テレジア教会からだると88周年。今年はそのお祝いをします。10月13日の記念ミサには先日叙階されたアンドレア・リンボ補佐司教が司式してくださいませ」

その後、正月の黙想中に読んだ本の中で心に残ったことを紹介されました。「数



年前、教皇フランシスコがイエズス会のメンバーに向けて、『私たちは変化の時代を生き延びるだけでなく、時代の変化を生き延びる』とおっしゃいました。これはどういうことか。教会というのは旅する神の民である。『旅する』をシノドスふうの言い換えると、『ともに歩む』ということですね。『ともに』が強調されがちですが、ある方が『私たちの信仰というのは悟りも大事だけれど、歩いていくことなのだ』と書かれていました。私たちは変化を通して旅をし、聖霊がどういう方向に導こうとしているのか

皆で識別しながら旅を続ける。むやみやたらと歩くのではなく、ある目標のもとに旅をしていく、これが私たちの信仰の歩みです。ミッション2030にもつながっていると思います。これから皆さんと一緒に、聖霊の導きをより深く識別していきたい。さまざまな人たちの貢献、祈りを通しての協力をよろしくお願いいたします」

また、高祖神父が同行する春の下五島巡礼「奈留島潜伏キリシタンの『阿古木古道』を歩く」の発表がありました(受付終了)。



▲還暦を迎える柴田潔神父も一緒に

ガラルダ神父様  
イエズス会入会75周年  
おめでとうございます！

サトルニノ・オチヨア神父からお祝いの言葉とピアノ演奏、信徒からは花かごが贈られました。ガラルダ神父はギターを演奏し、故郷スペインの歌を披露されました。



各共同体の舞台

英語圏は日本の歌に合わせ、英語圏は日本の歌に合わせてダンス、スペイン語圏はシスターセシリアのギター演奏で歌を、インドネシア共同体はアントニウス・フィルマン・シャール神父のギター演奏で歌のメドレー、ベトナム共同体は青年会のダンス、日本語共同体は有志の聖歌隊が聖歌を披露しました。

## ミッション2030

## 今年度の取り組みのご報告

ミッション2030プロジェクトチーム 星野和子

聖イグナチオ教会は2017年から、「ミッション2030」を基本理念として歩んでいます。当教会が、そして私たち信徒が何を大切に、どのような目標に向かって歩んでいけばいいかという方向性を示したものが、それが「ミッション2030」です。具体的な方向性は、「ミッション2030—前文—」に示されています。

ミッション2030プロジェクトチームではこの基本理念を皆さまに広く知っていただき、共に歩んでいけるよう取り組んでいます。

## つながりを取り戻すヒント

コロナ禍で教会活動の多くが停滞しました。私たちの取り組みも例外ではありませんでした。活動再開にあたっては試行錯誤し、スタッフで共に祈り、気づきや思いを分かち合いました。

そうしてたどりついたのが、講話と黙想と分かち合い

の集いの開催でした。初心に戻り、私たちは前文が示す道を歩むことができているかを、一人ひとりが祈りの内に自らに問いかける機会を持ちたいと考えたのです。

第一回となる集いは昨年2月、「あなたにとつて教会は『わが家』になっていますか」というテーマでサトル・オチョア神父にお話しいただきました。オチョア神父は講話の中で「教会として、信じる人として、イエス・キリストと共に、弱い人たちと共に歩む。これが私たちの『道』です」と話されました。

このお話を受け、4月から3カ月連続で「つながりを作ろう、つながりを深めよう」をテーマにした集いを行いました。コロナ禍で集まるのが難しくなり、教会や仲間とのつながりをどう保つかが大きな課題となったからです。

つながりを取り戻すヒントを探ろうと、4月はシス

ター野本佳子に【お互いの声に耳を傾けよう】。5月はシスター品川ヨシ子に【自分の思いを声に出して伝えよう】。6月は関根悦雄神父に【話そう、そしてつながろう】という内容でそれぞれお話しいただきました。受洗したばかりの方や未受洗の方の参加もあり、新鮮な雰囲気を感じられる集いになりました。

そして7月には【アフターコロナの教会共同体】と題して主任司祭の高祖敏明神父にお話しいただき、「持続可能な共同体になること」「共同識別を重ね、世界の人々と共に歩む共同体を目指してほしい」と具体的な姿を示していたいただきました。

## 出かけて行く勇気

現在、世界の74人に1人が故郷を追われ、難民になっています。そこで、9月の「世界難民移住移動者の日」に心を寄せる企画として、オンライン講演会【難民の友に、難民と共に】を開催。漆原比呂志氏（国際協力NGO一般社団法人JLMM事務局長）から、難民のリアルな状況を伺いました。さらに後

日、鎌倉の「NPO法人アルペなんみんセンター」を訪ね、難民の方たちから直接、話を伺うこともできました。

教皇フランシスコは常々、理解と慰めと助けを必要とする人の所へ出かけて行くことを勧めておられます。私たちも世界の人々と共に歩む共同体となれるよう、出かけていく勇気を常に身に付けていたいと思います。

10月にはシスター野本が、【あなたの隣人は誰ですか】という内容でお話しくださりました。会社、学校、教会など身近な所にも助けを必要とする方がいます。彼らの必要に応えるには「祈りと識別が大切」とシスターは言われました。

## 「教会とは何か」を学ぶ

今年には現在の主聖堂ができて25周年を迎え、数々の記念行事が行われる予定です。ミッション2030プロジェクトチームでも取り組みを始めています。一つは「教会とは何か」を学ぶ集いの開催です。昨年11月にはオチョア神父が【あわれみ深い母である教会】、今年2月には高祖神父が【キリストのか

らだである教会】と題して、それぞれお話しくださいました。また、現聖堂の建設に尽力された方に話を伺う【教会の語り部に聴く】という集いも開催中です。詳細は6ページでご紹介していますので、ご参照ください。



ミッション2030が当教会の基本理念となつて7年が経つものの、まだ皆さまに伝え切れておらず至らなさを感じます。そうした中、各集いの初めに参加者と共に、ミッション2030の前文を「私たちの祈り」として唱えるようにしたところ、何人かの方から「このような姿を目指したい」という声をお聞きすることができました。

それは小さな実りかもしれませんが、成長するほど野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる（マタイ13:32）という「からし種」のたとえ話が聖書にあります。ミッション2030の下、共に歩み、福音を伝え続けていきますように。これからも、ご協力とご助言をいただけたら幸いです。

教会行事

1月の主な教会行事の報告です。

●成人式ミサ&祝賀会

1月7日(日)18時ミサの中で、22名の新成人を祝福していただきました。教会学校に通っていた頃、晴れ着を着たり、ダーたちが成人式ミサにあずかるのを見てきたので、ついに自分にもその番が回ってきたのだと思うと非常に感慨深いです。なじみ深い聖イグナチオ教会ではありますが、振袖を着てミサにあずかるのはとても新鮮で、成人になったことに對する実感と大切な仲間とこの日を迎えられる喜びを



いそぐ強く感じました。皆さまからの祝福を心にとめ、自立した成人の一人として恥ないようこれからもまっすぐ人生を歩んでいきたいと思えます。

19時からヨセフホールにて祝賀会も行われ、日本酒での鏡開きや生まれ年の2003年に起こった出来事に関するクイズ大会が行われました。長い時間とともに過ぎしてきた同級生も高校卒業を機にそれぞれの道に進み、最近は顔を合わせる機会に恵まれませんでした。が、楽しい時間を過ごすことができてとてもうれしかったです。改めて、教会で出会った友人との縁をこれからもずっと大切にしようと思えました。(田中花奈さん)

●日曜学校

1月21日(日)に日曜学校で新年会が催されました。当日、保護者の方々にもお手伝いいただきながら子どもたちは、伝統的な餅つきを行いました。また、カルタやコマ、福笑いなど新年らしい遊びも楽しみました。杵の重さによるけながらも頑張って餅をつく姿はとても



(日曜学校リーダー 村山和香・まの)

●サントニーニョのお祭り

1月21日(日)12時の英語ミサの中で祝われ、司式のジョディ・マグト神父は次のように話されました。「毎年1月の第3日曜日に、世界中のフィリピンコミュニティはサントニーニョ(幼きイエス・キリスト)のお祭りを祝います。サントニーニョの木像は1565年の戦

たくましく、格好よかったです。ついた餅は保護者の方々に味付けをしていただき、子どもたちが味わいました。自分たちでついたお餅の味は格別で、子どもたちはうれしそうに頬張っていました。世界中で政治的緊張が続いていますが、本年も無事日曜学校が始められたことに感謝いたします。子どもたちがより健やかでありますように。

火から奇跡的に守られ、フィリピンの人々がキリスト教の信仰を受け入れるきっかけとなりました」

また派遣の祝福の前に、サントニーニョ像を持参した人や祝別してもらいたい子どもたちに、「子供たちをわたしのところに来させなさい。」「……」神の国はこのような者たちのものである。「……」子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない(マルコ10:14-15 抜粋)と祭壇の前に来るよう呼びかけました。私たちもフィリピンの人々の幼な子のような信仰を、世界中の人々と分かち合いたいと思います。(シスター フロール・フロレーセ)



新年炊き出し

1月2日(火)11時30分から、昨年に続いて2回目の新年炊き出しを行いました。教会の福祉関連グループ有志が集まり、ちらし寿司200食を用意。サバ缶、どら焼き、みかん、正月らしく黒豆なども一緒に配布しました。

主にふだんカレーの会に並んでいる人たちが受け取り、「昨年よりうまくできていた」という感想もいただきました。ちらし寿司は四ツ谷おにぎり仲間でも時々作るの、少しずつ熟達しているのかもしれない。

配布したものはすべて、マリアテレジア基金他、毎月の献米、バザーの手作り作品の収益、修道院や個人からの寄付で賄っています。皆さんの真心を、これからも生活に困っている人たちの支援につなげていけたら、嬉しいですよ。



▲お祝いの気持ちを込めたちらし寿司

# 活動グループ便り ⑩

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

## 🏠 クリーンアップグループ

私たちの教会を  
信徒の手できれいに！

教会施設の清掃奉仕グループです。主聖堂・クリプタ・ザビエル聖堂・信徒会館・トイレ・屋外の清掃をしています。奉仕を通して皆さんの気付きをいただいています。

「いつも綺麗にしてください」とお声を掛けてくださる皆様、こちらこそありがとうございます。  
時間の制約がある中で、せっかくなので、聖堂までお祈りにいらしたのに、清掃中でガツカリされることもおありでしょう。ちょっとうるさいし、移動をお願いすることもあってもありませんが、どうぞご遠慮なく座ってゆっくりお祈りください。  
グループメンバーは随時募

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。



## 🏠 受け皿グループ

新しい方々が安心して  
教会生活を送れるように

私たち受け皿グループは新しく受洗・転入・改宗された方を対象に、1977年より司祭・信徒評議員・事務室・各活動グループ協力のもと、年2回、教会オリエンテーションを主催しております。

オリエンテーションの内容について簡単に紹介します。前半・後半の2部構成です。前半は、新しく共同体メンバーになられた方々をリード・サポートする司祭・信徒評議員の紹介とお話。続いて事務連絡と防災連絡。最後は、新たなつながりづくり・仲間づくりのきっかけとして、活動グループの資料配布と紹介があります。後半は、グループでの分かち合いと、司祭への質問コーナーという構成になっております。

新しい方々が、教会(自分たち)を支える人たちと出会い、人柄に触れ、安心して教会生活スタートしていただければと思います。そして人と人とのつながりの中に自分の居場所を見つけようと思われた時に、オリエンテーションで提供

した情報が少しでもお役に立てたら幸いです。

また日曜サロンと連携し、サロン内で受け皿スタッフによる「ミニオリエンテーション」も実施しております。オリエンテーション他の日程は、教会報・ポスターでご確認ください。どなたでも一緒に活動して下さる方を募集中です。皆さまのお越しをお待ちしております。

## ✍️ 栗栖徳雄信徒 養成講座

『福音の喜び』を  
ともに学びませんか

2013年11月24日教皇フランシスコは第二バチカン公会議開幕50周年を記念した信仰年(2012年10月~2013年11月)の終わりの日に、最初の使徒的勧告『福音の喜び』を発表されました。この勧告は21世紀を生きる私たちが神の国を築いて行くためのオリエンテーションとなるものです。

本書は序文と第一章「教会の宣教の変革」、第二章「危機に直面する共同体」、第三章「福音の告知」、第四章「福音宣教の社会的次元」、第五章「聖霊とともにある福音宣教者」と章立

てされ288項目からなっています。とくに第四章では新しい地平を拓くために必要な4つの原理、すなわち、①「時は空間に勝る」(n222)、②「一致は対立に勝る」(n226)、③「現実

は理念に勝る」(n231)、④「全体は部分に勝る」(n234)が述べられています。講座では本書の各項目を丹念に読み、各々の経験に照らし識別しながら実践への道を話し合います。また理解を深めるために第二バチカン公会議の『教会憲章』、『現代世界憲章』(以上、カトリック中央協議会)、教皇就任から1年間の説教と講話をまとめた教皇フランシスコの『いつくしみの教会』(明石書店)などを参照しながら、現代のキリスト者の使命と生き方について、リアルな現状認識を持って学びます。途中からの参加も大歓迎です。

日時: 毎週月曜  
14:00~15:30  
場所: 信徒会館203B





〔現聖堂25周年記念連載〕 聖イグナチオ教会と私②

# 互いの声に耳を傾け 教会が一つになった

関根悦雄神父

## 英語教員を経て イエズス会へ

上智大学の英文学科に在学中、友人に誘われて学内のキリスト教入門講座のヘルパーを始めました。私自身はまだ洗礼を受けていなかったのですが、講座の手伝いをしているうちに「洗礼を受けてもいいかな」と思うようになり、受洗しました。

そして大学4年生の夏休みに神戸や広島、山口の教会を回ってイエズス会の神父たちと話をし、イエズス会に入りたいと思うようになったのですが、その頃は受洗して一年も経っていませんでした。そこで大学卒業後に3年間、英語教員をしてから



イエズス会に入会しました。イエズス会に入ってから私の主な仕事は中高で教えることでしたが、1992年に日本管区の仕事をやるようになり、その頃には現聖堂の建設準備が進んでおり、建設委員も務めることになりました。

現在の主聖堂は、祭壇がやや低い位置にあり、会衆席が祭壇を囲むように配置されています。このように造りは、25年前にはとても斬新でした。

## 主聖堂の設計には 反対意見もあった

当時の伝統的な聖堂は、祭壇が前方のやや高い所にあり、会衆は祭壇を仰ぎ見るといった造りでした。聖イグナチオ教会の旧聖堂もそうした造りでしたから、新しい聖堂の模型を見て「どうしてこのような造りなのだろう」と違和感をもつ人

も少なくありませんでした。かなり強い反対意見の方たちもいたようです。

そこで何度も話し合いが行われました。話し合いには建築家や設計事務所の方が出席され、信徒や教会関係者の違和感や疑問に一つひとつ答え、どうしてそのような設計になっているのかを丁寧に説明してくれました。そうした話し合いを重ねるうちにさまざまな疑問が晴れ、理解が進み、教会がまとまっていた感がありました。

## 第二バチカン公会議（1962年〜1965年）で典礼が刷新され、イエスの記念の食卓を囲んで一つになって

礼拝することを大切にするようになり、主聖堂は、そのコンセプトにふさわしいものだと感じていました。

## 悩んで選んだ 主聖堂のドアノブ

1996年、建設に中心的に関わっていた池長潤神父が大阪に移られたため、その後、私が細かいことをいろいろと決めなければならなくなりました。

ある時、設計事務所の方が、「ドアノブはどれにしま

しようか」と分厚いカタログを持ってこられました。主聖堂にマリア聖堂にザビエル聖堂、そして信徒会館、いろいろな所のドアノブを私に決めてほしいというのです。私は素人なので困ってしまいました。が、ああでもないこうでもないと考えて選びました。

主聖堂のいろいろな扉のノブも、私が選ばせていたのだのです。どのノブを見ても感慨深いものがあります。

## つながりを作り ともに歩む教会へ

これからも、意見や考えが分かれたりする場合があるかもしれませんが、その時は、現聖堂の建築時に何度も話し合いをし、相手の声を聴くことで一つになっていったことを思い出してください。考えていることや感じていることを仲間と分かち合い、一人ひとりが満足いくコミュニケーションをとっていくことが良い教会作りには欠かせないと思います。

また、昨今の教会を見て感じるのは、世代間の分断が強くなっていることです。教会を存続していくには、分断ではなくつながりを作って

いかなければいけません。皆さんは若者とつながってはいませんか。つながるにはどうすればいいでしょうか。真剣に考え、つながりを探りながら、若い人たちに信仰の核心を伝えていってください。

活動グループのつながりも大切です。この教会では、たくさん活動グループが奉仕をされています。とても素晴らしいことですが、個々で完結しているグループも少なくないように見受けられます。グループ同士がつながり、ともに歩んでいくようにすると、もっともつと良い教会になると思います。

皆さん一人ひとりが教会の主役です。それを意識して、今後も教会を守り、信仰を伝えていってください。



ミッション2030プロジェクトチームでは、現聖堂25周年を迎えるにあたり、聖堂建築時に尽力された方にお話を伺う「教会の語り部に聴く」という集いを開催しています。本稿は、2024年1月28日に行われた第1回の語り部として登場してください。関根悦雄神父のお話から抜粋・編集したものです。



Family of St. Ignatius

～インドネシア共同体から～

去年のクリスマスに、私たちの共同体に神様からのプレゼントが与えられました。改宗式と幼児洗礼式が行われ、新しい兄弟姉妹を迎えることが出来ました。そして、去年の待降節の日帰り黙想会や年始の新年会においても、新しい兄弟姉妹を迎えると同時に、み言葉の霊的育成や懇親会等が久しぶりに開かれました。

インドネシアから来日したばかりの兄弟姉妹の歓迎や、久しぶりの教会帰りの方々ととの再会を通して、神様の恵みに支えられる「共に歩む」ことの具現化を、徐々に経験しているように感じています。まだまだ不十分な

具現化だと思いましたが、共同体の中に分かち合われている神様の恵みの「多様な姿」が共に歩むための絆になっている気がしています。



そして、この経験を聖イグナチオ教会の一つの共同体として分かち合い、より深い一致に基づく歩みが出来るようにと希望を抱いています。

●受難の主日から復活の主日までの典礼●

\*本年は新型コロナウイルス感染症による入堂制限等はありません。

- 3月24日(日) 受難の主日(枝の主日)
  - 23日(土) 18:00(日本語) 19:30(ベトナム語)
  - 24日(日) 7:00 8:30 10:00 18:00(日本語) 12:00(英語) 13:30(スペイン語) 15:00(ベトナム語)
- 3月28日(木) 聖木曜日 主の晩餐の夕べ 19:00
- 3月29日(金) 聖金曜日 主の受難 19:00
- 3月30日(土) 聖土曜日 復活の聖なる徹夜祭 19:00(日本語) 19:00(ベトナム語 上智大学)
- 3月31日(日) 復活の主日
  - 7:00 8:30 10:00 18:00(日本語) 12:00(英語) 13:30(スペイン語) 15:00(ベトナム語 上智大学)

●お手伝い募集●

- ・2024年度年間予定表の封入作業
  - 日時：3月13日(水) 9:00～12:00
  - 場所：3F アルペホール
  - \*信徒へ8,000通郵送するための封入作業をお手伝いください。
- ・シュロの枝切り作業
  - 日時：3月22日(金) 10:00～12:00
  - 場所：ヨセフホール
  - \*受難の主日に使用するシュロの準備作業。
  - \*持ち物：エプロン、軍手、花ばさみ
- ・イースターエッグの飾りつけ
  - 日時：3月30日(土) 9:00～12:00
  - 場所：ヨセフホール
  - \*お子様も参加できます。
  - \*持ち物：エプロン

●献血のお知らせ●

日本赤十字社による献血を4月14日(日)に実施します。  
 時間：10:00～16:30(予定、1時間30分の昼休憩あり)  
 場所：ヨセフホール  
 \*献血の基準、予約等の詳細については、チラシをご覧ください。

●財務報告●

1月28日(日)世界子ども助け合い日の献金937,699円はローマ教皇庁に送られ、世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。

●能登半島地震救援募金●

1月1日夕刻、石川県能登地方で発生した大地震に対する救援募金をお願いしていますが、1月段階で名古屋教区に150万円、カリタスジャパンに120万円を送金いたしました。

●お米の寄付のお願い●

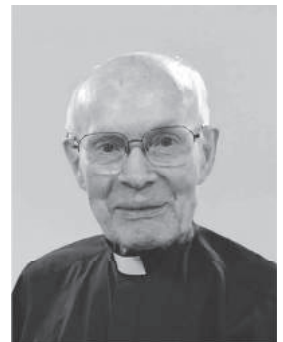
カレーの会・四ツ谷おにぎり仲間では、生活に困っている人たちへの食べ物の配布に、毎週50kgほどのお米が必要ですが、そのお米、特に無洗米が不足しています。毎月の献米などでのご寄付をお待ちしています。

訃報 (R.I.P.) ロバート・ディーターズ神父

2月4日(日)帰天されました。99歳。葬儀は2月8日(木)、聖イグナチオ教会で執り行われました。ディーターズ神父様は長年上智大学で教えられたほか、イエズス会日本管区長など多岐に活動され、聖イグナチオ教会では司牧活動等霊的指導をされました。

略歴

- 1924年11月26日 米国シンシナティ市生れ
- 1943年～1945年 米国海兵隊、少尉
- 1946年2月10日 イエズス会入会(シカゴ管区)
- 1952年9月20日 来日
- 1958年3月18日 司祭叙階(東京)
- 1964年～1968年 東京大学で電子工学の研究、工学博士
- 1968年～75年/81～95年 上智大学理工学部で教える
- 1975年～1980年 イエズス会日本管区長
- 1986年～1990年 上智大学理工学部長
- 1986年～89年/94～97年 マリッジ・エンカウンター代表司祭
- 1996年～2001年 SJハウスで司牧活動
- 2001年～2008年 上石神井修道院院長
- 2001年～2012年 イエズス会中国センター所長
- 2008年～2023年 SJハウスで司牧活動
- 2023年6月～ ロヨラハウス
- 2024年2月4日 帰天(東京)



## 3月の典礼と行事

1 (金) 初金曜日	十字架の道行 18:45 マリア聖堂(聖週間前までの毎金曜日)	性虐待被害者のための祈りと償いの日
3 (日) 四旬節第3主日		
6 (水)	2024年新春セミナー「気候危機について」 18:30 ヨセフホール 使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』 「原発について」 講師：光延 一郎神父	
10 (日) 四旬節第4主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 「父と子と聖霊である神」 講師：宮越俊光氏	
13 (水)	傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後	
16 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール	
17 (日) 四旬節第5主日		
19 (火) 聖ヨセフの祭日		
20 (水)	四旬節黙想会 10:00 主聖堂 クリプタに安置され3月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00	
24 (日) 受難の主日(枝の主日)	教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール	
28 (木) 聖木曜日(主の晩餐)	19:00	聖香油のミサ (10:30 カテドラル)
29 (金) 聖金曜日(主の受難)大斎小斎	19:00 十字架の道行 15:00	聖地のための献金
30 (土) 聖土曜日(復活徹夜祭)	19:00 (洗礼式)	
31 (日) 復活の主日	聖体奉仕者任命式 10:00 ミサ 洗礼式 15:30 ミサ (ミサ後お祝い会)	

最新情報はイグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス

グエン・タン・ニャー

サトルニノ・オチョア

柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

グエン・バン・テー

関根 悦雄

マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

## ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday &amp; Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00/19:30 (Viêt Nam)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) /13:30 (Español) /

15:00 (Viêt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd &amp; 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会  
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>

ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

\*本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。